

シラバス(授業計画)作成要領について

シラバス(Syllabus)とは、授業内容をあらわす授業計画書である。シラバスには、授業の目標、方法と手順、評価の方法、その他の参考事項を明確に記載し、大学全体で統一した記載形式・内容が求められる。

シラバスは、学生への情報提供や学習指針はもとより、大学(学部・学科)カリキュラムにおける当該科目の位置づけ、授業に対する学生と教員のコミュニケーション、教員間の合意形成などの働きをもつものである。

本学シラバスの作成については、全学共通の様式により、下記に示す作成要領を基本に、本学の Web シラバス編集システムにより、各担当教員が直接入力して行う。(本学ホームページ「学内専用」の「シラバス作成」に、各教員がアクセスして作成)

<記載のポイント>

※詳細は、本学「FDハンドブック:WEB版」参照。

- 1) 文体は、「である」体。
- 2) 学生の主体的な学習指針であることから、「…を教える」でなく、「…を学ぶ」と書く。
- 3) 学習目標は、大学・学部・学科のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)等との整合性が求められる。
- 4) 学習内容は、目標到達のために、学習の内容、順序、方法を構造化して表す。
- 5) 評価方法は、具体的かつ客観的に表現する。

全学教育科目は「授業
題目」も記載

講義、演習、実習の
いずれかを記載

学年、前期か後期、必修科目か選択科目か、
単位数を記載する

授業科目 例: 個体差健康科学 例: ○○看護学	授業題目 例: 個体差健康科学・ 多職種連携入門
--------------------------------	--------------------------------

[区分] 第○学年 前期/後期 必修/選択 ○単位

《担当者名》○医療 学 北海 道子 ※担当教員全員の氏名を記載

【概要】 複数で授業を担当する場合、授業責任者に○をつける

どんな科目なのか、科目の趣旨をできるだけ簡潔に説明する。専門性との関連を説明することも効果的である。また、全体のカリキュラムでの科目の位置づけ、意義なども表現するのもよい。

例)「本科目は、看護学を学ぶ基本として、人体を理解するために必須の人体の仕組みと働きを学ぶ。」など

【学習目標】

学生が授業を受けることで何かできるようになるか、**学習目標を箇条書き**する(具体的な書き方は次ページ参照)。

学習目標については、**ディプロマ・ポリシー**(学位授与方針)との関連や整合性について留意する。

【学習内容】 学生が学習目標を達成できるように、学ぶ順序性にも留意しながら授業を構成するとともに、多様な授業法を駆使して毎回の授業内容を具体的に表現する。また、宿題、中間試験なども実施して、互いのフィードバック(授業の仕方の見直しと学生の学習状況の途中把握)を行う。

回数は科目により決ま
っている

その回を担当する教員全
員の名前を入れる

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	○○○とは	○○○の課題について概説できる。	○× △□
2			特別講師××××
15			○× △□

授業回数には定期試験を含まない。教務日程上、
回数が不足する場合には補講日を設定する。

【評価方法】

評価項目と評価全体に占める割合を書く。 例)レポート 10%, 中間試験 20%, 定期試験70%
できるだけ学習目標に対する到達度および評価基準について明示する。
できるだけ課題(試験・レポート等)に関するフィードバックの方法などについて明示する。

【備考】教科書、参考書、その他:

※できるだけ明示する。使用しない場合も「使用しない」「その都度プリントを配付する」など記載する。

【学習の準備】

単位修得に必要な学習時間は、例えば講義の1単位は 45 時間で、その内訳は「授業 15 時間＋予習・復習 30 時間」である。

このことを考慮し、予習・復習として学生が取り組むべき内容および標準的な所要時間を具体的に記載する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

本授業科目と関連するディプロマ・ポリシー(学位授与方針)について、該当するポリシー(方針)の文章により記載する。

本授業科目の学習目標(到達目標)および各回の学習課題等との整合性について留意する。